キャラクター名: 桜 カイト

プレイヤー名:

シンドローム	ウロボロス ブラックドッグ	ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	16	性別	男の子
覚醒	渇望	衝動	恐怖	初期侵食率	41 %
出自	義理の両親	経験	心の壁	邂逅	師匠

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	0	0			3
感覚	2	0	0			2
精神	3	1	0			4
社会	0	0	1			1

HP	30
行動値	8
(非装備時)	8
戦闘移動	13
全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	3	
運転：			芸術：			知識：	2		情報：UGN	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
100以下	白兵	7r-1	3	28		
100越え	白兵	10r-1	3	49		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
日本刀	
ウェポンケース	
コネUGN幹部	
コネ噂好きの友人	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
自身のレネゲイドウイルス	P 有為	N 不信感		
親戚のおじさんおばさん	P 誠意	N 疎外感		
支部長（橘ヨシユキ）	P 信頼	N 恥辱		
シナリオロイス/橘アクト	P 尊敬	N 劣等感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
ｺﾝｾﾝﾄﾚｲﾄ:ｳﾛﾎﾞﾛｽ	2	2	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ					
効果：	C値-Lv							
原初の青:光の衣	1	4+1	ﾏｲﾅｰ					
効果：	ﾘｱｸｼｮﾝC値+1　ｼﾅﾘｵLv回							
シャドースクラッチ	4	2	白兵/RC					
効果：	攻撃力+Lv×2							
無形の影	1	4	精神					
効果：	【精神】判定　ﾗｳﾝﾄﾞ1回							
螺旋の悪魔	5	3	ｾｯﾄｱｯﾌﾟ					
効果：	暴走付与　攻撃力+Lv×3							
レックレスフォース	3	(2)	常時					
効果：	暴走時ﾒｼﾞｬｰ判定ﾀﾞｲｽ+Lv個							
原初の白:ｸﾚｲｼﾞｰﾄﾞﾗｲﾌﾞ	3	5+2	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ				80	
効果：	攻撃力+Lv×4　暴走時のみ使用可							
ｲｰｼﾞｰﾌｪｲｶｰ:軽功	1							
効果：	「えぇと…こう…かな？」							
道化の出し物	1							
効果：	「あっごめんね…真似、ばっかりして…」							
無面目	1							
効果：	「その…自信が無くって……つい逃げちゃい…ました…」							
効果：								
効果：								
効果：								

桜 海斗／さくら かいと
CN みえないあす―ﾌｭｰﾁｬｰ―

よくいえば謙虚で愛嬌がある、悪く言えばネガティブでのろまドジ。優しいけれど優しすぎるが故に優柔不断。あと背が小さい、コンプレックス、いつかアクトくんと同じくらい大きくなりたい！

幼い頃に両親を事故でなくし、親戚の家に預けられて育った。必要なものは用意してもらったし不自由のない生活だったが親戚が与えてくれたのはそれだけで愛情は感じられなかった。
覚醒してからはアクトくんと橘家の家族とも距離が縮まり気がつけば橘家でよくご飯をご馳走になるような仲に。アクトくんとは仲良くなる喜びと同時に少しだけ暖かい家族を持っていない恥ずかしさに胸が痛むこともあった。

アクトくんとは小学生のときから同級生でクラスもずっと同じだったがお互い会話をするようなことはなかった。ただカイトは一方的にアクトくんの真っ直ぐに生きる姿勢が眩しくて勝手に尊敬と羨望の目でずっと見てはいた。
だから長いこと彼の背中を見ていたというのに彼の名前を呼んだのはジャーム襲撃事件の時が初めてだった。
見たことのない化け物に彼が襲われる直前、何もできることなんてないはずなのに何故か彼の名を叫んで彼に手を伸ばしていた。
次の瞬間あたりをどす黒い影が包み込みそれを割るように雷が劈かれ雷撃の一部がアクトに襲撃した。
この時カイトは理解した。どういうわけか自身の体から溢れんばかりの雷が放たれたことを。そしてそれを抑えることができずアクトの身を傷つけたことを。
あの瞬間の映像は3年たった今でもカイトの脳裏に焼き付いている。
と同時にそのせいでカイトは今でも自身の力に怯え使う度に恐怖に身をのまれそうになる。
カイト自身は自身の力に対してその恐怖を打ち消さなくてはならないと思っているようだが……

.